PUBLICITY NEWS 12

理事長統括室
2008.3.26

平安女学院がマスコミに報道されました！！

車椅子で往復３時間かけて通学の山下さん、感動の大学卒業式！

2008年３月20日
讀賣新聞朝刊

車いす通学 自信つかむ

脳性まひのため、車いすで往復３時間かけて平安女学院大高槻キャンパスに通っていた滋賀県高島市の山下朋巳さん(22)が19日、卒業証書を手にした。不安を乗り越えて自分の世界を広げ、前向きに勉学に励む姿が学友らの励みになったとして、学内表彰「エディ賞」も受賞。山下さんは「長距離を通学することで、社会に出る自信がついた。感謝を忘れず、いろんなことに挑戦したい」と喜んだ。

滋賀の山下さん 平安女学院大卒業

卒業証書を受け取る山下さん（右、平安女学院大高槻キャンパスで）

往復３時間「挑戦続ける」

山下さんは、両手両足が不自由で幼いころから車いすの生活。家族や友達の助けを借りることが多いため、「介助する側のことを学び、みんなの思いを知りたい」と、自宅に近い滋賀県守山市内にキャンパスがあった同大学現代福祉学科に入学した。

2年の春からキャンパスが高槻市へ移転することになった。一人で通出した」と方がなく、不安から、両親に「もう、やめたい」と漏らした。しかし、大学の働きかけで、高槻市営バスが、山下さんの時間割に合わせて臨時バスを出してくれることになり、通学を続けると決めた。

JRとバスを乗り継ぎ、片道1時間半、揺れてくると、一人で出かける自信がつき、最後は、大阪の百貨店に服を見に行くこともある。

休まず通い、授業中わずかに動く左手で懸命にノートを取る姿は、同級生らを励ました。

この日、山岡景一郎学長から、卒業証書とエディ賞の賞状を受け取り、山下さんは顔れくさそうに口ほほ笑んだ。4月から、京都市内の百貨店で働く。担任の川北典子准教授は「これからも自分らしく通張って」とエールを送っていた。

2008年３月20日
産経新聞朝刊

ハンディ越え 万感の卒業

平安女学院大、山下さんにエディ賞

車いすで4年間通学した山下さんに「エディ賞」が贈られた＝高槻市の平安女学院大

脳性マヒと体が不自由な身車いすを使いながら4年間通学した平安女学院大（高槻市塚原台）の山下朋巳さん（22）が19日、学内表彰「エディ賞」を受けて卒業した。山下さんは「長距離通学できたことが自信になりました」と喜びを語った。

山下さんは、滋賀県高島市の自宅から1時間半かけて通学。片道約1時間半かけて通学した。身体に障害を持ちながらも、明るい性格で前向きに学習に励む山下さんの姿がほかの学生の模範となったことが評価された。

卒業式には、ほかの卒業生らとともにガウンと帽子姿で出席。学生一人ずつに学位授与証を贈った後、山岡学長が「山下さんの姿に多くの学生が勇気づけられました」と感謝の言葉を贈り、エディ賞を授与した。

4月から京都市の百貨店に就職し、社会人として活躍する山下さんは「4年間福祉について学び、人を援助することを考えるようになって、自分も成長できました」と話していた。

2008年３月20日
毎日新聞朝刊

電車、バスで片道１時間半

頑張った車椅子通学

平安女学院大を卒業

滋賀・山下さん

平安女学院大（高槻市南平台5）に滋賀県高島市から車椅子で通い続けた現代福祉学科4年、山下朋巳さん（22）が19日、卒業した。4月からは京都市内の百貨店に就職する。山下さんは「福祉は、人と人とのつながりが大事。授業で学んだコミュニケーション技術を生かし、仕事をしたい」と笑顔で語り、160人の仲間と共に巣立った。

山下さんは脳性マヒのため手足が不自由で、高校までは親の車で通学。「電車通学を経験して世界を広げたい」と同県守山市にある同大に進学した。

ところが、2年生の時、キャンパスが高槻市に移転した。JRで高槻駅まで行き、駅からは市交通部の配慮で運行した低床バスに乗り、「根性はある」と自ら語る明るい性格で、片道約1時間半の道のりを通い続けた。

卒業式では、山岡景一郎学長から卒業証書のほか、模範となる活躍をした学生に贈られる創立者の名前を冠した「エディ賞」も受け取った。【立石信夫】

卒業式でエディ賞を受ける山下さん

2008年３月26日
讀賣新聞朝刊

学生服 少子化でも堅調

生徒数が伸び悩む中で、学生服が根強い需要を保っている。制服の「モデルチェンジ」でイメージ一新を図る私立の中学・高校に加え、小中一貫教育化や学校の統合を機に、新たに制服を導入する学校もある。（船木七月）

「OLさんみたい」「気持ちが引き締まる」――。日本で最初にセーラー服を導入したという平安女学院高校（京都市）は、4年ぶりに制服を一新する。4月からの試組の制服は、簡素で大人っぽい。学校側は「少子化対策で共学化が進んでいるが、あえて女子校らしさを強調して差別化を図りたい」（理事長統括室）とした様子だった。

学生服大手のトンボ（岡山市）は「2000年ごろはかわいい派手な制服が流行したが、最近はフォーマルなスーツ調が人気」という。

06年度から区立小中学校の一貫教育化を進めている東京都品川区の目野学園は「統合前の小学校には制服がなかったが、服装がバラバラでは、きちんとした生活指導ができない」として小中一貫の制服を導入した。小中一貫化を目指す公立校は全国に1000校以上あり、関西学院や関西大学も小学校からの一貫教育を導入する方針。

制服は1980年代後半から、伝統的な「詰め襟」や「セーラー服」から「ブレザー」への切り替えが進んだ。それが一巡するとと、92年度をピークにモデルチェンジ需要が激減した。

教育評論家の尾木直樹さんは「制服を廃止した学校でも市）が07年7月期（連結）に4年連続の増収となるなど堅調だ。今後も「年255-3300校のモデルチェンジが続く」（トンボ）とみられる。

新しい制服を試験した平安女学院高校の生徒たち（京都市上京区で）＝永井哲朗撮影

「小中一貫」で導入増

とと考えが、学生服素材大手7、8割が学生服を着ているの日本毛織によると、07年度・という。最近の制服化の流れに制服を刷新した中学や高校は、自己責任で物事を決められず、周囲に同調しがちな親の世代の意識の表れ」と指摘する。

ピーク時の92年度（1995校）の1・5倍以上になった。08年度は440校程度に落ち込む見通しだが、00～08年度に中学1年生と高校1年生の合計の生徒数が25%減った「逆風」の中で高い水準を保っている。

国内の学生服市場は、ここ数年1100億円前後で推移し、学生服メーカーの業績も、トンボが07年6月期（単体）で6年連続、「カンコー」ブランドの尾崎商事（岡山

全国の生徒数と制服モデルチェンジ実施校数

※日本毛織調べ。生徒数は中学1年生と高校1年生の合計。実施校数は中学と高校の合計

新しくなる、高校の新制服！